

28万市民の夢

長岡東西道路信濃川
橋りょう工事が着工

市内の中心市街地（川東地区）とニュータウン（川西地区）を結ぶ長岡東西道路の信濃川橋りょうの起工記念式が10月10日に行われました。

長岡東西道路は、全長約10キロの地域高規格道路。市は、平成2年に官民一体の期成同盟会を結成し、橋りょう部分の早期完成に向けて運動を続けてきました。平成10年度、県が整備する国道として事業に着手。平成18年度には、信濃川と渋海川にかかる橋りょう部分約1.3キロを国が直轄で事業を行うことが決まりました。

橋が完成すると長生橋や大手大橋の渋滞緩和や、長岡ICへのアクセス向上が期待されます。

市は、平成23年度中の完成に向け引き続き要望していきます。



シティホール設計者を選定するための審査会を傍聴しませんか

設計コンペ一次審査通過者による作品の提案と設計者へのヒアリングを公開します。

どなたでも傍聴できますが、公正な審査を行うため、入退室や通信機器、撮影機器の利用に制限があります。

ご協力をお願いします。

日時=11月29日(木)午後1時～4時(予定)
会場=長岡グランドホテル4階「蒼柴」
定員=200人(先着)

☎11月21日(水)までに厚生会館地区整備推進室 ☎39・2299へ

③ JR長岡駅周辺

駅周辺のアクセス性を高めるため、駅前通りの渋滞緩和対策や東口エスカレーター整備を実施。

平成23年までに、自転車駐車場、駅の東西自由通路から直接大手通りにつながるペDESTリアンデッキを整備。

- ① 渋滞緩和のため、白線を引き直して停車スペースを確保
- ② 駅前広場の完成イメージ図



大手通表町地区

今年度中に、再開発の具体的な事業化の検討を開始。

市は、駅前通りの渋滞緩和対策として、白線を引き直し、荷物を搬入する車両の停車スペースを確保。また、歩行者の利便性を高めるために、駅東口でエスカレーターの設置工事を進めています。

平成二十三年には、駅の手口と東口を結ぶ東西自由通路を延伸。駅の二階部分の通路から直接大手通りへつながるペDESTリアンデッキ(※)を整備する予定です。歩行者は安全、スムーズに移動でき、横断歩道をなくすことで、駅前渋滞もさらに緩和されます。※車道と分離された歩行者専用高架通路。

平成二十三年、長岡の新しい「顔」がまちなかに

市民協働型シティホールの建設、民間による再開発ビルの整備、駅周辺のインフラ整備などにより、平成二十三年、市民待望の長岡の新しい「顔」が誕生します。

① 厚生会館地区

平成23年、公会堂と屋根付き広場、市庁舎が一体となった市民協働型シティホールが誕生。

▶屋根付き広場での活動を先取りした厚生会館前の地域交流イベント(10月21日・越後長岡・暮らし文化の祭典)



② 大手通中央東地区・西地区

平成23年度、東地区(旧イチムラ周辺)は商業・業務施設、学びと交流の拠点に。平成22年度、西地区は商業・住宅とまちなかの子育て施設に。



▶大手通中央地区の完成予想図
□が東地区、○が西地区



① 市民協働型シティホールは今年度中に基本設計に着手
まちなか再生や市民協働のシンボルとなるシティホールは、今年度中に基本設計に着手。来年度は厚生会館の解体工事が始まります。平成二十三年までの工事期間中は、中・小ホールの代わりとなる施設を中心市街地に確保。市民活動の場所を提供します。

② 大手通中央東地区は学びと交流、西地区は子育て支援施設に
大手通中央東地区(旧イチムラ周辺)と西地区(旧丸専)の間は、中・小ホールの代わりとなる施設を中心市街地に確保。市民活動の場所を提供します。

西地区には建物の解体工事に着手。新たにできる十八階建ての建物には、現在市民センター内にあるまちなか保育園やちびっこ広場など子育て支援施設が移転する計画です。上層階には住宅を整備し、まちなか居住を促進します。また、表町地区の再開発は、今年度中に開発の事業化の検討を始めています。

いよいよ始動 ながおかのまちなか再生

合言葉は「市民協働」と「まちなか回帰」

行政機能の再配置、再開発ビルを活用した子育て支援や学びの拠点整備、駅周辺のアクセス改善など、まちなかの再生がいよいよ始まります。行政機能を中心市街地に回帰させ、にぎわいを呼び戻そうという試みは全国初。この秋、大手通中央西地区(旧丸専周辺)では、事業に着手。まちなか再生と市民協働のシンボルとなるシティホールは、平成23年の完成を目指します。

☎まちなか整備課 ☎39・2807、交通政策課 ☎39・2267